

世界美術叢書
第二卷
マナス

東京藝術學研究會發行

653-112



1200501570294

Kodak Gray Scale

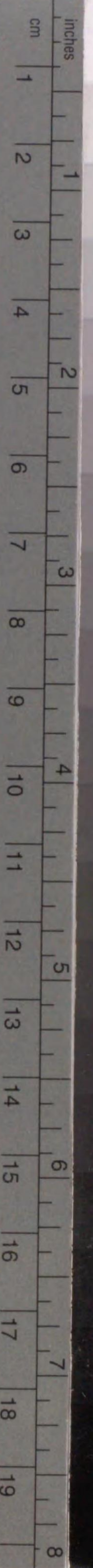
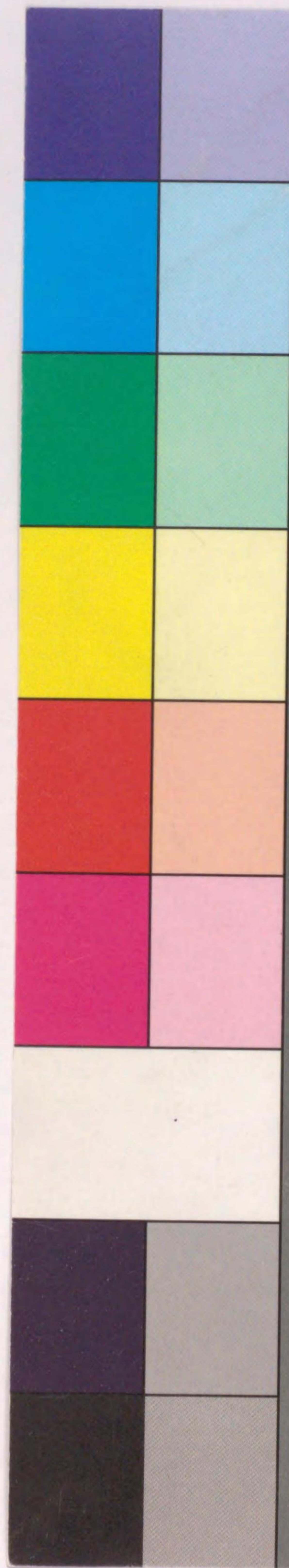


© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



© Kodak, 2007 TM: Kodak

Bildende Kunst

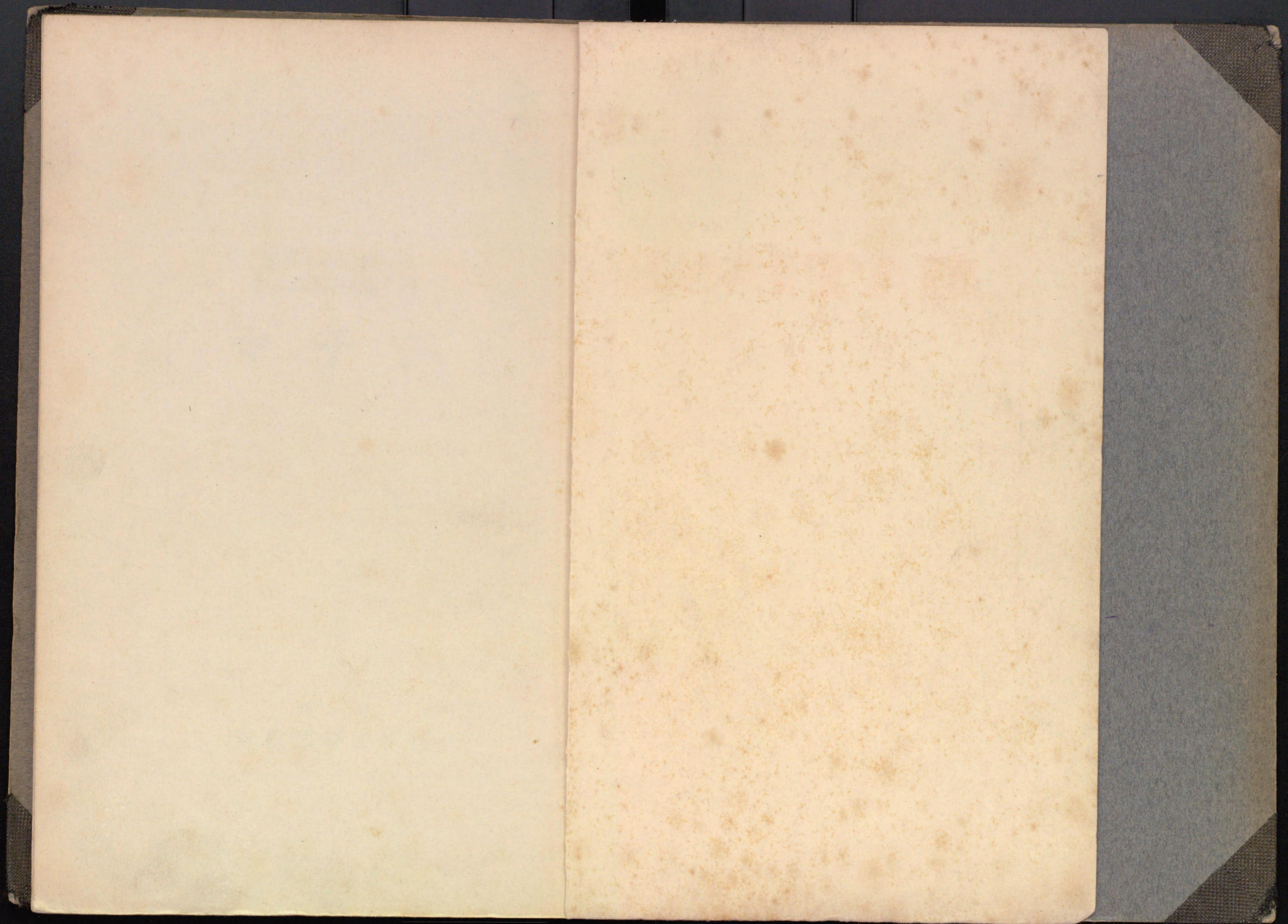
2

MATISSE

1933

Kunstwissenschaft Institut

Tokio

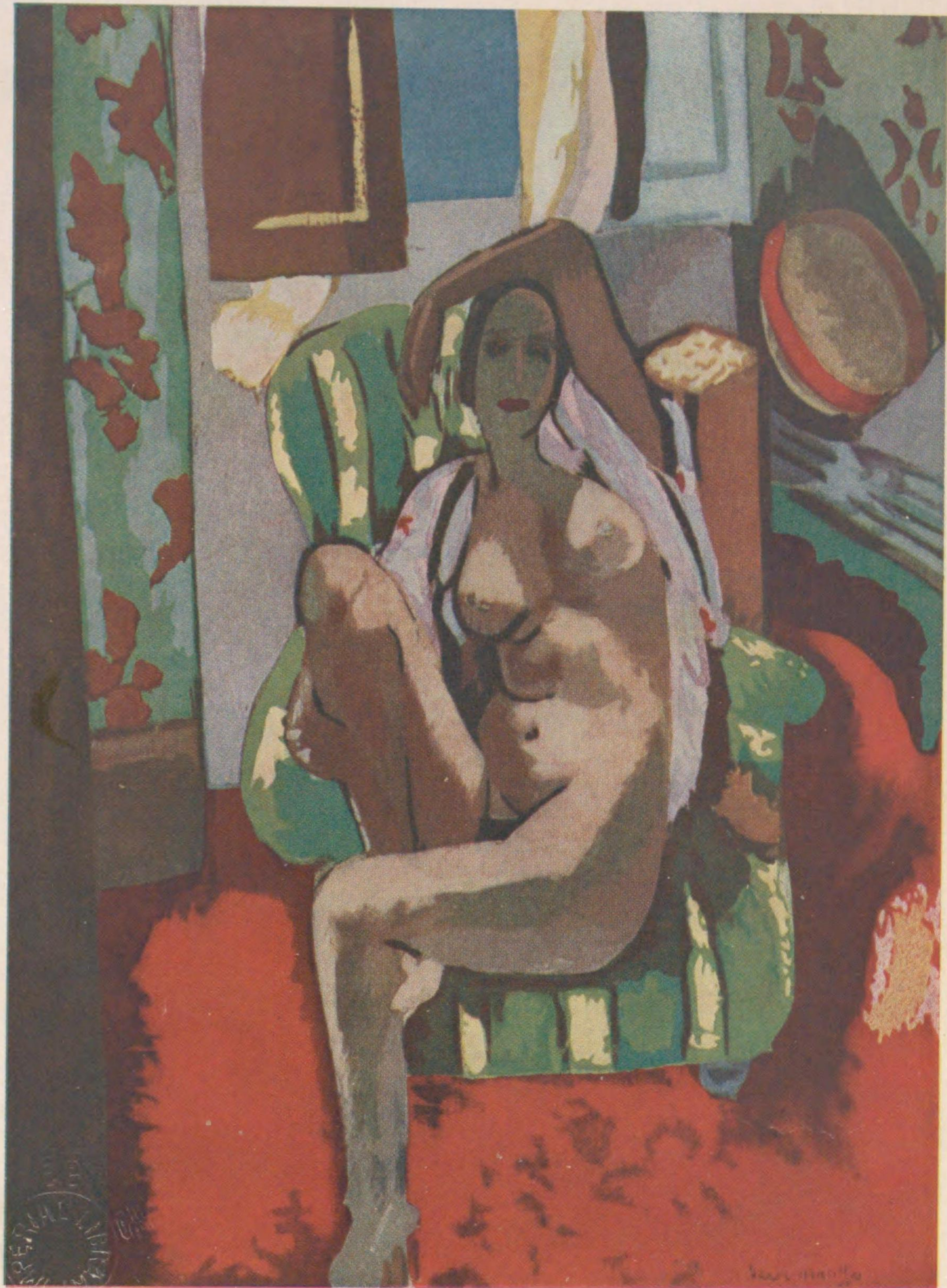


藝術學研究會編纂
世界美術叢書第二卷

マチス

東京
藝術學研究會刊



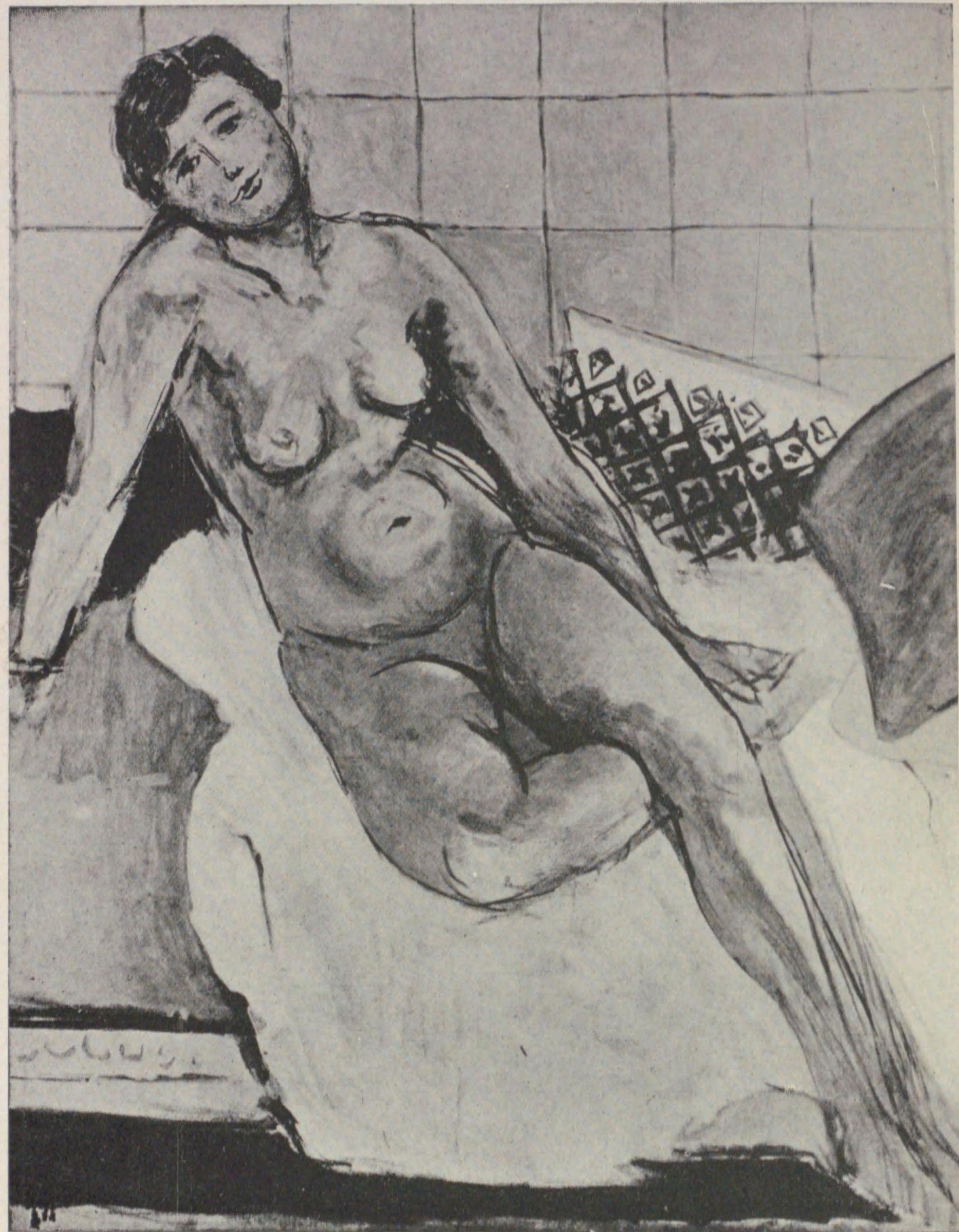


アンリ・マチス作

裸婦

世界美術叢書刊行の主旨

現在の日本の文化は著しく進んでゐますが、悲しむべきことには、まだ完備した常設美術館を持つことの出来ない状態にあります。かうした不満不便は識者の十分認知してゐることであり、また何等かの方法で補はなければならないものと信じます。當會はさうした缺陷を補ふ最も重要な方法としまして、手輕な研究者、鑑賞家用の小作品集を刊行することを企てました。これが本叢書の生れた主旨で、かうした仕事は決して營利的に考へて成立するものではありません。その點當協會は大きい犠牲をしのんでゐるものです。この點を十分御諒解の上御助力をお願い申上ます。



裸 婦 (1929)





坐るオダリスク (1929)

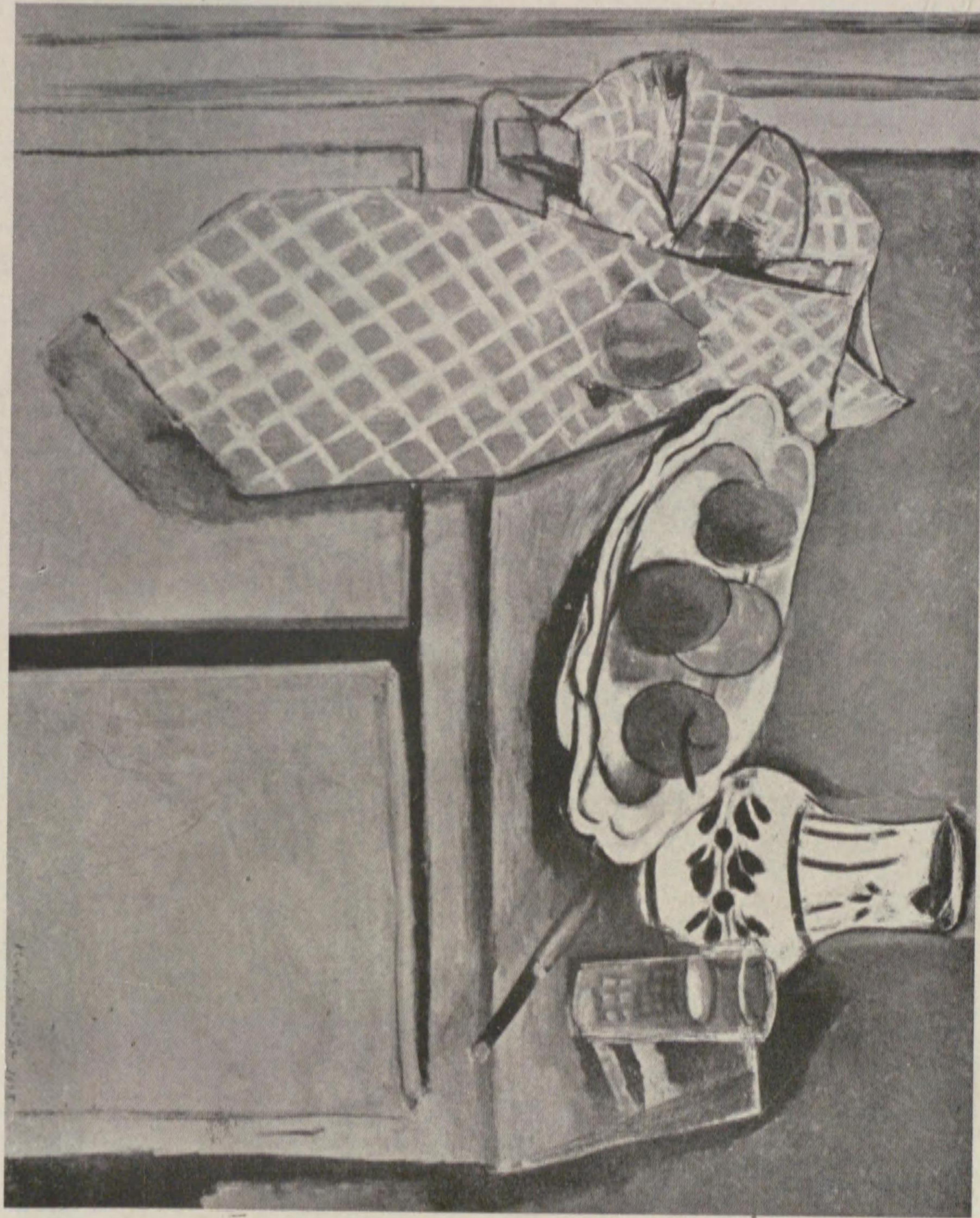


黄色の帽子 (1929)



グラジオラス (1928)

食器戸棚 (1928)





タンボリンを持つ踊子 (1926)



踊子 (1927)

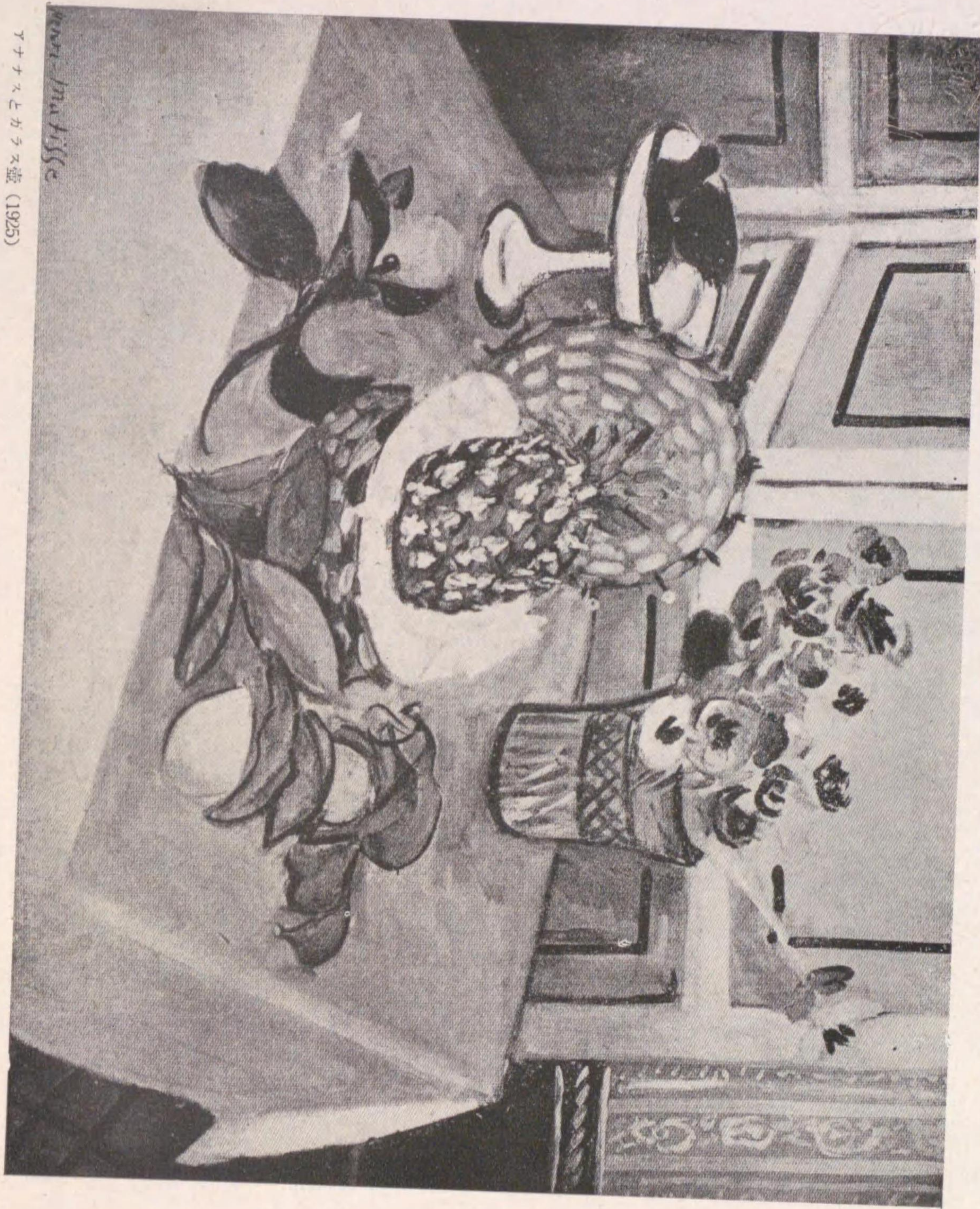
静物上の果物 (1925)



素 描(木炭) (1925)



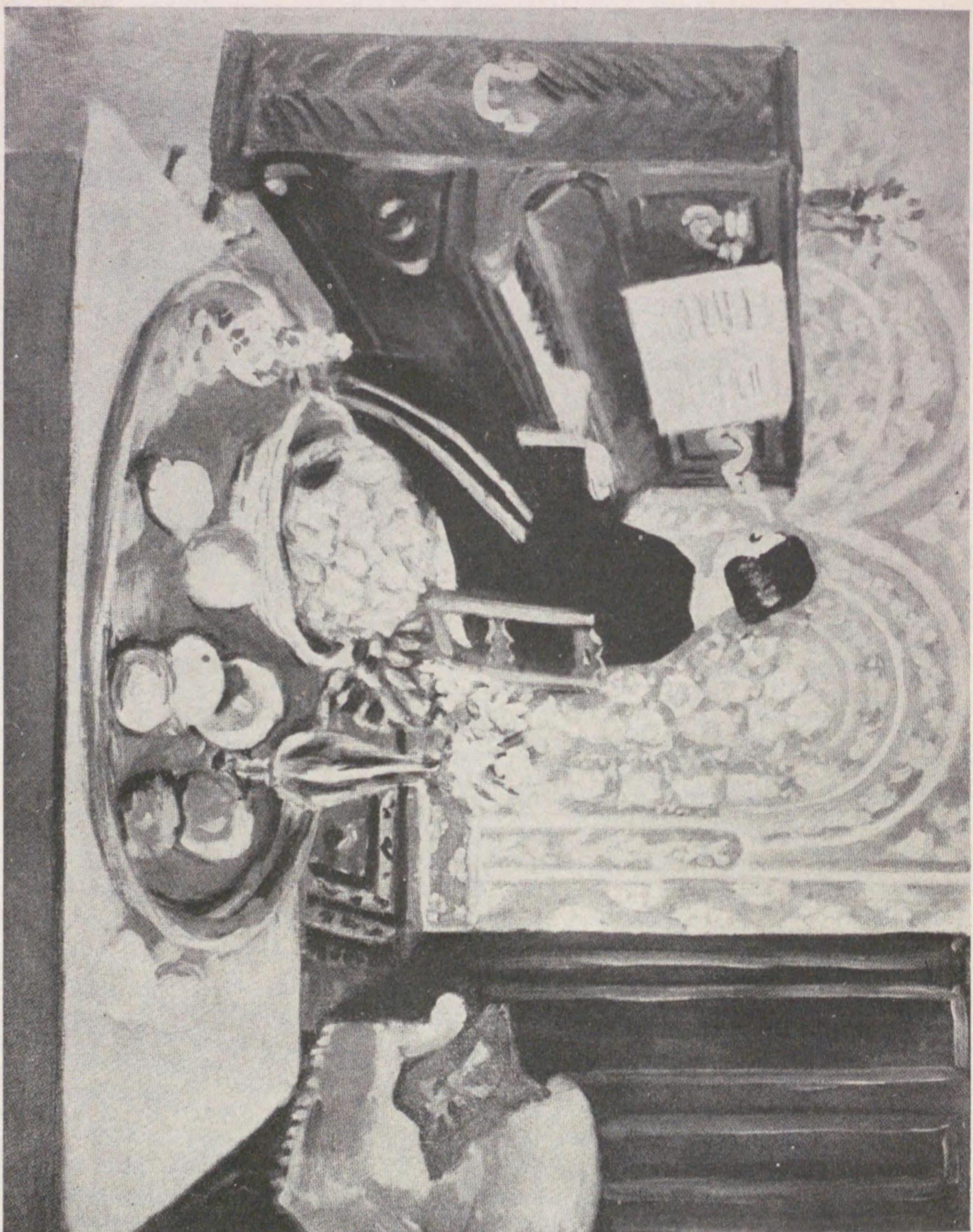
レ・ローズ・サフラーノ (1925)



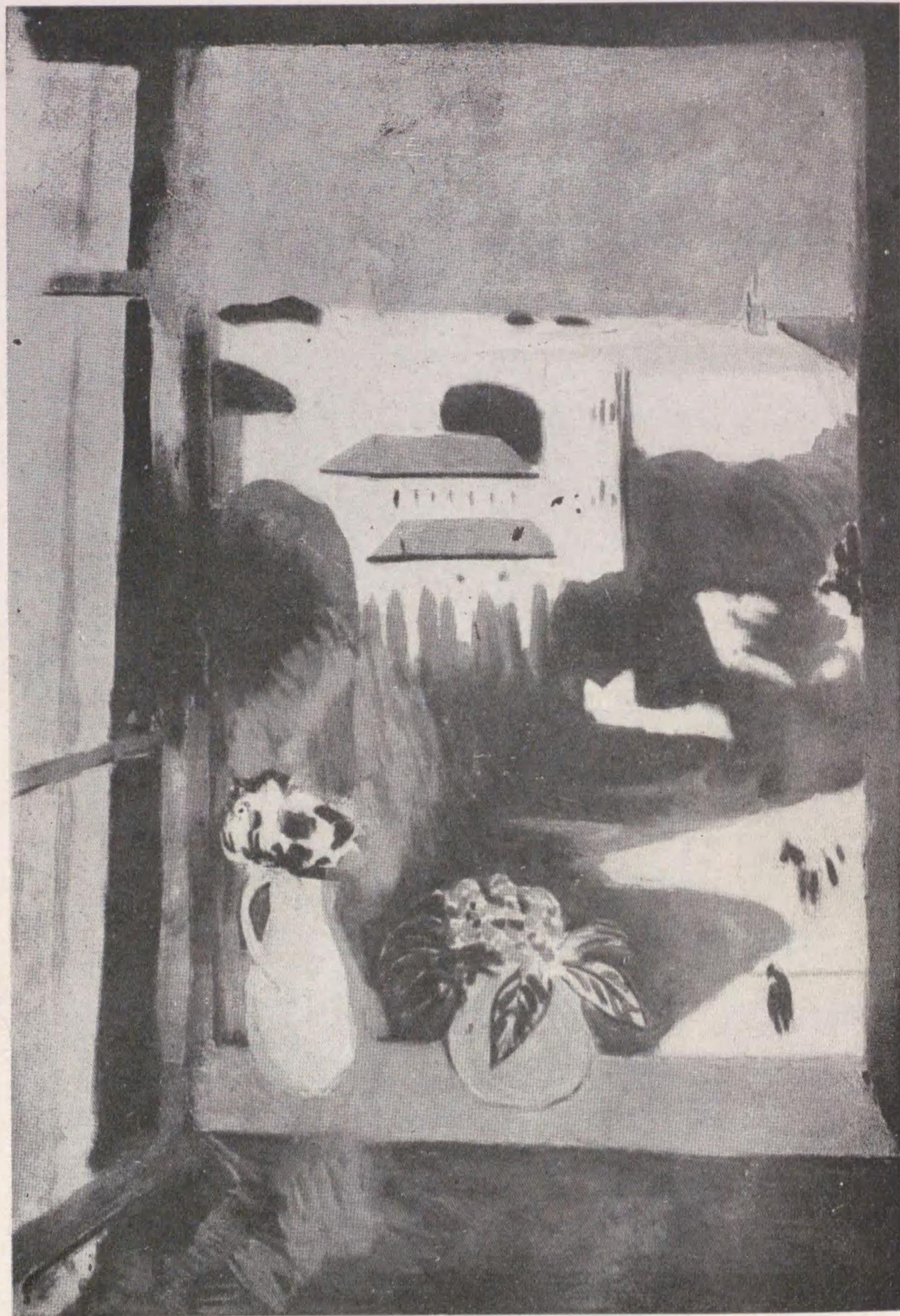
Yvonne Kargin
ヤナニスとカリン壺 (1925)



茶 撫木英 (1924)



若い婦人とピアノ



冬の窓



窓

植 臥 婦 人



オ リ ス タ (1921)





羽毛の帽子 (1919)

陸 (1919)

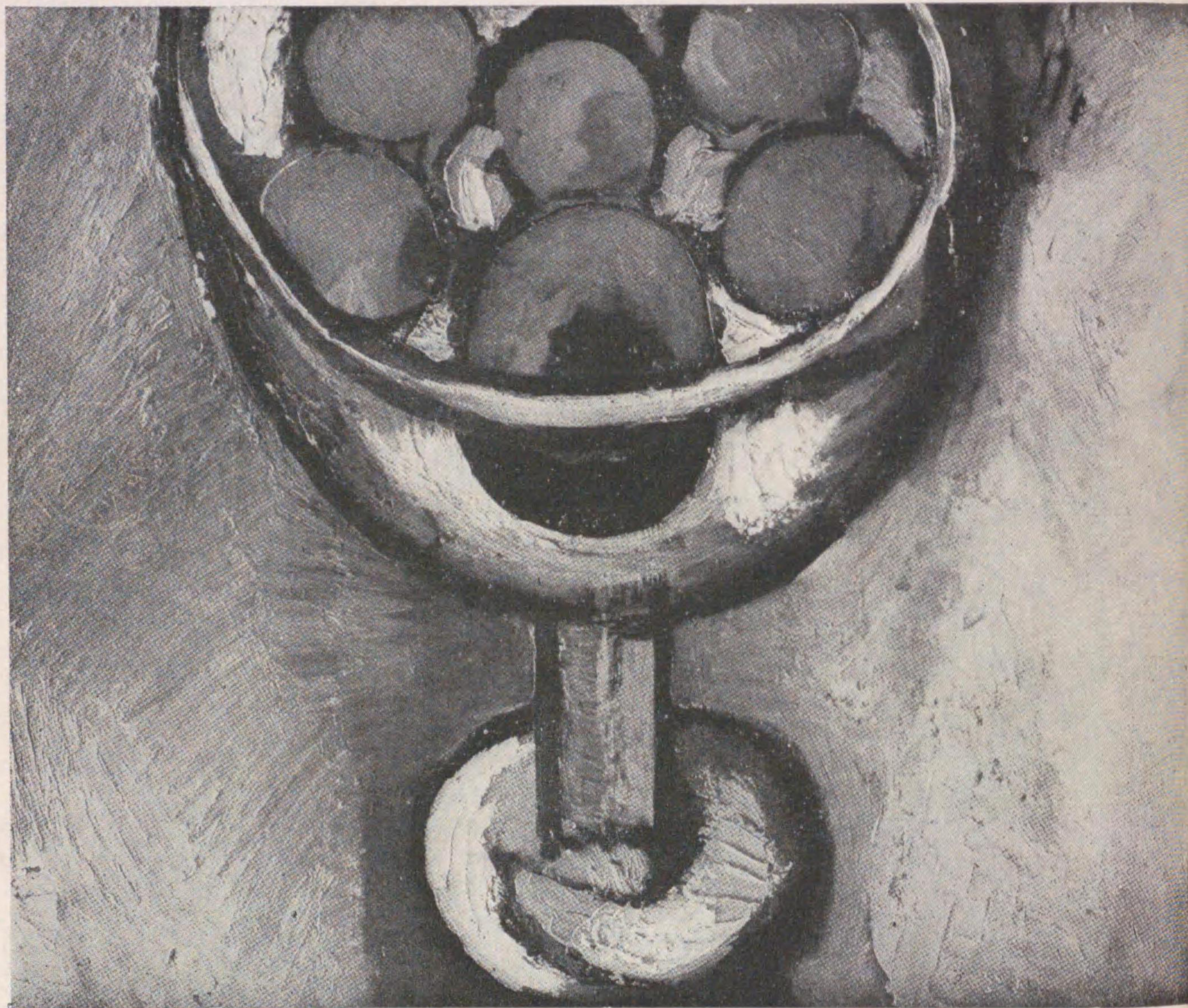




音楽家

旗隊船人





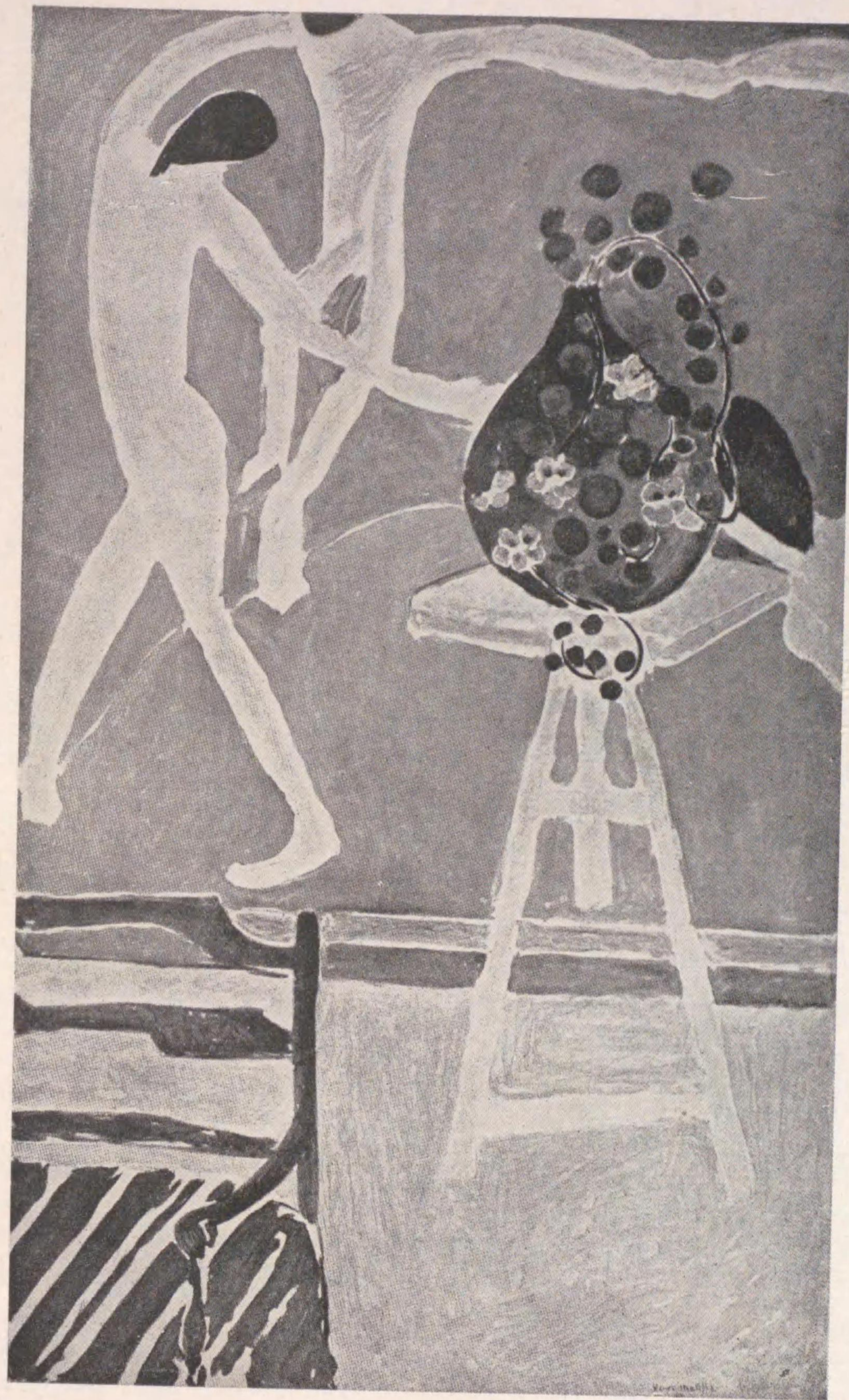
オレンジのコップ (1916)



三人姉妹 (1917)



姉妹 (1916)



水芥子 (1916)



裸 婦



姉 妹 (1916)

生の撒き (1908)



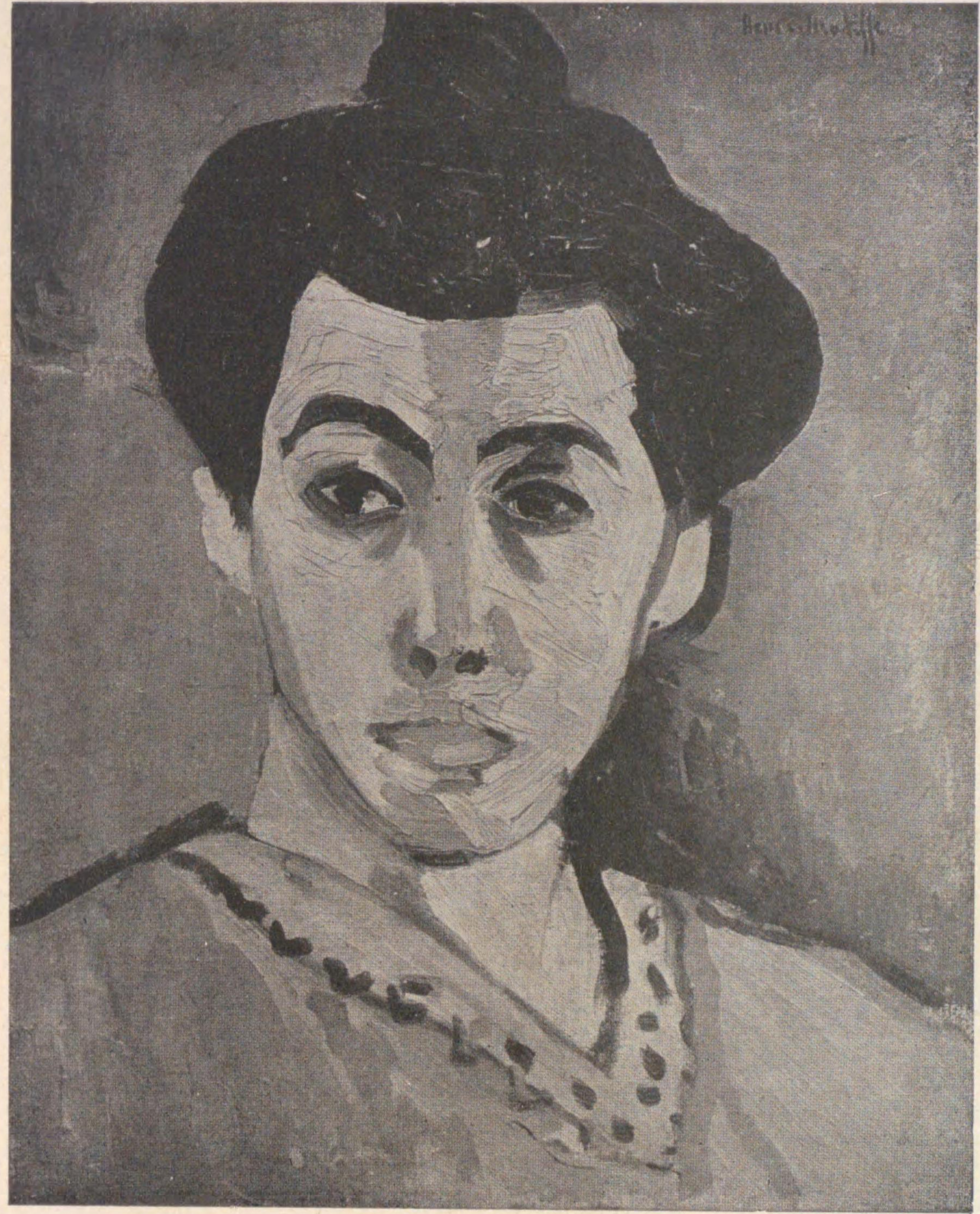
素 描(木炭) (1909)

653-112



アンリ・マテイスと純粹繪畫

青シルヴァン・ボンマリアージュ
柳秀夫



マチス夫人 (1905)

古い友人メッサンヂェは、アンリ・マチスが始めてピカソの畫の前に足を止めたあの記念すべき日を、恐らく私と同様によく記憶してゐることだらう。文士達が畫が解りもしないのにこれを説明したのは、ドガの有名な言葉が既に一般化されてゐた一九〇九年であつたと思ふ。私は他人に説明する必要も無かつたので、批評はグレーズやメッサンヂェに任せて置いて、ただ畫を理解しようとするに止つた。然しアンリ・マチスが、メッサンヂェと私とを振り向いて、心の中には明瞭でありながら、それを言ひ表はさうとする言葉が未だ漠然としてゐる彼の思想を一言で断定しようとして、(こいつはキュービズムだ……これこそ純粹繪畫への廣大なる一歩だ。)と言つたその日のその疑問の世界には、何かしら變つた物が急に湧き出したやうな印象を受けた。

そしてマチスはつけ加へた。(私達も皆そこへ行くだらう。)

實際を言へば、既にマチスはそこに行きつゝあつた。然し他の道を通つてではあるが、その後彼はそこに復歸した。

當時、彼の幻術のやうな藝術は私達若者の腦裡に、私達が酩酊した時、口にした最も強烈な酒の一つを注ぎかけてゐた。私達はその魅力に呪はれたのだつた。告白するが、マチスの作品が、全く様々な色彩の混亂によつて得た驚嘆すべき統一、最も不可思議至極な色調相互の効果の神祕な關係、

等の色彩に關した研究によつて世に顯はれてゐた時代に、私は素描家としてのマチスの、心置きない讚美者として人後に落ちなかつた。恐らくマチスの線は、トゥルーズ・ロートレックのその鋭さも、ロダンのその決定的な力も持たなかつた。然しそこには言ふに言はれない微妙な憑倅の魅力、誘惑と怠惰とに充ちた言ふに言はれないふるひおののく確實さが見られた。ロートレックは彼自身、絶え間のない運動である。マチスは空間に於ける或る限定された時間である。一九〇九年、私が特にマチスのデッサンを愛してゐたといふのは、恐らくそれがそれ等の持つてゐる人の心に話しかける不思議な無言の雄辯にあつたのだらう。……またかうしてこの大家は、私達の見るところではピカソに屬してゐた。然しこの親類關係は私達にとつてだけ存在してゐた。それは何等の形而上學的なものをも持つてゐなかつた。

油繪畫家として、素描家として非凡な才に恵まれたピカソは、既に當時から、私が今しようとする注目を受くるには餘りに評判高かつた。然しその時私は、ピカソの特質は、綜合の大家を知ることにあるといふことを認めてゐた。私は彼の仕事机の上に亂雑に載つてゐる屢々驚嘆すべきデッサンの中に、ドミエ、ドガ、ロートレック等の或る種の作品の、細部に至るまでの影響を見出した。繰返して言ふが、ピカソは彼に關係ある作家を識つてゐた。彼の素描家としての藝術は既に大家を

識るの藝術であつた。マチスの藝術はより新しいものではなくとも、少くともより直觀的である、そして彼大家の鉛筆が筆以上に魅力あるのは、恐らく彼が自分の智能と言ふものに、直接訴へるからだ。

一九〇九年に、必然的にデッサンの愛は、デッサンすることを知つてゐる總ての藝術家を、私達の心の中に近寄せた。キュービズムは、ポスト・アンプレッシオニズムの意氣消沈して行きつまつた繪畫に、デッサンを課する方法にしか過ぎなかつたと私は信じてゐる……またこの點から、マチスとピカソとの間の、私の記憶に於ける對照が出發してゐる。ピカソはこれを流行させたのだ。然し本文の冒頭に掲げた物語が證明する通り、一九〇九年には既に著名の畫家であつたマチスが、ピカソの言はうと欲したものを最初に了解する才能を持つてゐたことは、否定出来ないことである。

（それは純粹繪畫に屬するものだ）と、マチスは言つた。かう言ひながらマチスは、多少の批評を口にしてゐた。然し頑固さの時代は過ぎた、そしてマチスは總ての天才藝術家のやうに、自分自身で純粹繪畫に向つた。

私はある時、美術の表現が高尙になればなる程、それだけ造形的になり、冷くなると言つた。ヴァン、ゴッゲは、彼の最上の作品に於て、氣質を調節してゐる。ゴーギャンやセザンヌは凍えて

ゐる。ピカソもまた冷い。ロートレックやスーラ等は、氷をもつて冷したものだ、しかも特別に甘味を抜いてゐる、あたかもアメリカの軍旗のついたシャンパンの大瓶のやうだ。そしてこの考を友達の一人に話したが、（彼は恐らくそれは、天才が畫を描く時に不必要な細部を皆省略して了ふからだらう。）と答へた。彼の言葉は何といふ確かなことだらう。また一九〇九年以來、如何にマチスは作畫の方法を單純化したことか。マラルメのやうに自然に技法の趣味によつて、マチスは中學校で教師の所謂（難かしい作家）とならうとする傾向を持つてゐる事實難かしい作家は、凡人はをろか、通人を氣取る男にさへ好かれない。何故と言ふなれば、かうした作家は最も單純にして、最も了解し易いから。

一日私はロートレックのデッサン、それ等もまた純粹繪畫に屬し、また大畫家が彼の最上の才能を打込んだデッサンを研究してゐた。その中に、少量の繪具のつけられた二本の線に單純化される著色デッサンがあつた。それ等の作品の一つを前に、繪畫愛好者は私に言つた、（貴方が大變珍重されるのはそれなのですか。紙の上には殆んど何も無いではありませんか。）フィガロの主筆カルメットは或る日一週間づつのデッサンを持つて來るフォランの訪問を受けた。（フォラン君、とカルメットは言つた、木炭を三度なすればそれで干法か、大したことはないね。そこへ何か附加へるのですか、と

フランは答へた、線影でも……

私達の愛する畫家が餘りに單純であり、或は餘りに難かしいとの口實の下に、彼等を理解し得ない人達と、何干法を出して線影を求めるフイガロの主筆とは不思議にも同じやうに私には思へる。

畫商であり、また特に體驗ある美術通のポール・ギョーム氏は、最近マチスの二作品を展覽會に公開して、フランス美術のために重大な宣傳をした。この作品はもつと適切な形容詞を持ち合せないので、私は線影の無いマチスと呼ぶことにする。

私達の問題としてゐるのは純粹繪畫である。然し純粹繪畫は、私達を懼れさせるべき何物をも持つてゐない。陳列された二作品、ピアノの稽古と、入浴の娘達は、ドラクロアの或るエチュードの冷たさと総合的な正確さを持つてゐる。かつて私達は、これ以上に魅せられ、混亂されたことは無かつた。何故と言ふなれば、私達は才能を前にしてゐるからである。敢へて言ふならば、あらゆる物語的な部分、彼の多くの作品に於て、直接彼に向つて進むことを妨害する總ての人工物を、全部取り除いた、彼大家の天分を前にしてゐるからである。

ロッシュポールは言つた、(人が最も馬鹿氣た事を言つたのは、コロオの作品の前である)と。私は敢へて附加へるであらう、(最も多數の間拔の集つたのは繪畫展覽會だ)と。私は事實私には、

これ等のアンリ・マチスの二作品について、委しく語るべき機会があつた。この大家を讚美する數多くの人達は、その二作品が無益に畫面を填めるあらゆるものがないといふ事を、明かに非難してゐる。美しい少女の愛すべきものは、彼女の上衣でもなければ、また人の心を混亂させる下衣でもない……上衣や下衣が包んでゐるのは裸體なのだ。同じやうに、繪畫の(アマトール)は畫家の天才を求めない、そして天才に行き着かんとするのを妨害する所の物を求める。

私は一度ドガが、海岸の私の兩親の家に来て、數日を送つたのを覚えてゐる。ある夕方、ドガと私の父と私(やつと十三四になつたばかりの)とで、太陽が水平線に没して行くのを眺めてゐた。金色もあれば、土星の赤色もあり、餘すところのない夏の空の碧色が、海の碧色の中に浸されてゐた。そして私は時刻の美と水平線の美に夢中になつてゐた……するとドガはいきなり私に言つた、(あの水平線の所で何が美しいと思ふか?)そこで私は色と光について彼に話した。(さうじかないんだよ、と返答した。水平線の所で美しいのは、直線なのだ……)ポール・ギョーム氏は愛好者の群に、最近(一直線)を示したのである。この人達こそ純粹繪畫に接觸したのだ! 彼等は理解するであらうか? それについて私は何も知らない……理解するように望むべきであらうか? それは危険なことだ。何故と言ふなれば、もしロートレックやスーラが、特別に甘味無しのG・H印葡萄酒なら、マ

チスはブルゴーニュ産の葡萄酒だからだ！

昭和八年十二月十一日印刷納本
 昭和八年十二月十五日發行

編輯兼發行者 外山一二三
 東京市神田區鎌倉町五
 印刷人 古川篤夫
 東京市神田區鎌倉町五
 印刷所 東陽印刷所
 東京府杉並區神戶町一四

發行所 藝術學研究會
 振替東京一三三九九番
 東京市神田區通神保町一番地

發賣所 上田屋書店
 電話神田三五八番
 振替東京三〇八六番

複製 定價 95 錢
 不許定價

藝術學研究會刊行・世界美術叢書目錄

A. 畫家

★ビカソ スゴンザック
 マチス フリエーツ
 ドラン スーチン
 ヴラマンク ゲラン
 ルオル アッスラン
 ユトリロ ヴァラドン
 ラ・フルネエ ボナアル
 マルケエ マイヨール
 ローランサン ブルデエル
 シェガール モネエ
 デュファイ マネエ
 ザツキン ビサロ
 キリコ ルノマル
 キスリング ロダン
 エルンスト コロオ
 タンギュイ クールベエ
 マッソン デスピオ
 等

B. 畫派

★シュールレアリスム
 ネオ・クラシスム
 ビューリスム
 キュービスム
 フォーヴィスム
 ダダイズム
 エキスプシオニスム
 アンブレシオニスム
 クラシシスム
 ロマンテイズム

C. 東洋美術

石 濤 鈴木春信
 八大山人 鳥居清長
 富岡鐵齋 東洲齋寫樂
 蕪 村 喜多川歌麿
 池 大雅 葛飾北齋
 浦上玉堂 勝川章春
 谷 文晁 一立齋廣重
 圓山應舉 司馬江漢

D. 現代日本洋畫家

★前田 寛治 中山 巍
 佐伯 祐三 里見 勝藏
 古賀 春江 三岸好太郎
 福澤 一郎 林 武

數百冊刊行ノ豫定

★印ハ刊行サレタモノ

菊判・寫眞31枚
 論文約16頁内外
 定價 95 錢

發行所

藝術學研究會

東京市杉並區神戸町一一四

653
112

95sen

